



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当
TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/10/25
SDS整理番号 12100350

製品等のコード : 1210-0350

製品等の名称 : ステアリン酸鉛 ()

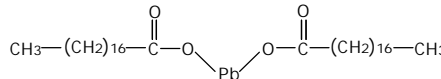
推奨用途 : 試薬

参考：その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)安定剤(塩ビ)、酸化・老化防止剤 など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約



GHS分類

物理化学的危険性
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性
発がん性 : 区分1B
生殖毒性 : 区分1A
特定標的臓器毒性(単回ばく露) : 区分1(血液系、腎臓、神経系)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) : 区分1(血液系、腎臓、神経系)

注意喚起語 : 危険

危険有害性情報
発がんのおそれ
生殖能または胎児への悪影響のおそれ
血液系、腎臓、神経系の障害
長期又は反復暴露による血液系、腎臓、神経系の障害

注意書き

【安全対策】

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん、ミスト、蒸気などを吸入しないこと。
取扱い後は、よく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。
気分が悪い時は、医師の診察、手当を受けること。

【保管】

直射日光を避け、容器を密閉し冷暗所に施錠して保管すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、

現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	: 化学物質
化学名	: ステアリン酸鉛() (別名) ステアリン酸鉛、ステアリン酸鉛塩、 オクタデカン酸鉛()、ビスステアリン酸鉛()、 ジステアリン酸鉛()、ビスオクタデカン酸鉛() (英名) Lead() stearate、Lead stearate、 Stearic acid, lead() salt、 Lead() octadecanoate、 Bisstearic acid lead()、 Distearic acid lead() salt、 Bisoctadecanoic acid lead() salt、 lead distearate (EC名称)、 Octadecanoic acid, lead(2+) salt (2:1) (TSCA名称)
成分及び含有量	: ステアリン酸鉛()、99.0%以上 鉛(Pb)含量: 26.5 ~ 27.5%
化学式及び構造式	: approx. Pb[CH ₃ (CH ₂) ₁₆ COO] ₂ 、approx. Pb(C ₁₇ H ₃₅ COO) ₂ 、 approx. C ₃₆ H ₇₀ O ₄ Pb、構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	: 774.15
官報公示整理番号	: (2)-615
化審法 安衛法	: 公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	: 1072-35-1、7428-48-0
EC No.	: 214-005-2
危険有害成分	: ステアリン酸鉛()

4. 応急措置

吸入した場合	: 呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受ける。
皮膚に付着した場合	: 皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は医師の手当を受ける。 汚染された作業衣は作業場から出さない。 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	: 直ちに、流水で15分以上注意深く洗う。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外して洗うこと。洗浄を続ける。まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの間々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 目の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	: 直ちに、口をすすぎ、うがいをする。 大量の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 意識がない時は、何も与えない。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状:	吸入 ; 咳、咽頭痛 皮膚 ; 発赤、痛み 眼 ; 発赤、痛み 経口摂取 ; 胃痙攣、便秘、痙攣、吐き気、嘔吐

5. 火災時の措置

適切な消火剤	: 本製品は可燃性である。 噴霧水、二酸化炭素、粉末消火剤、散水、泡消火剤
使ってはならない消火剤	: 棒状放水(本品があふれ出し、生物に対する有害性や環境汚染を引き起こすおそれがある。)
特有の危険有害性	: 火災によって刺激性、毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	: 危険でなければ火災区域から容器を移動する。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。 風上から消火活動をする。 環境への流出をできるだけ防止する。
消火を行う者の保護	: 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	: 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。
-----------------------	---

環境に対する注意事項 回収、中和	: 風上から作業し、粉じんなどを吸入しない。 粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。 : 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。 : 漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。 漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。 回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。 後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。
封じ込め及び浄化の方法・機材	: 危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策	: 事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。 床面に残るとする危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い	
技術的対策	: 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。 粉じんの発生を防止する。粉じんの堆積を防ぐ。
局所排気・全体換気 安全取扱い注意事項	: 除じん装置と局所排気装置又はプッシュプル型換気装置を設置する。 : すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 : 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの 取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避	: 湿気、水、高温体との接触を避ける。
保管	
技術的対策	: 保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。 保管場所は、採光と換気装置を設置する。
保管条件	: 直射日光や高温多湿を避けて保管する。 : 容器を密閉して冷暗所に保管する。 : 一定の場所を定めて、施錠して保管する。 : 貯蔵する所には、白地に赤枠、赤文字で「医薬用外劇物」の表示を行う : 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質	: 強酸化剤
容器包装材料	: ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラス等

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 0.05mg/m ³ (Pbとして)
許容濃度(ばく露限界値、 日本産衛学会 ACGIH)	: 生物学的ばく露指標): 0.1mg/m ³ (Pbとして) 設定されていない
設備対策	: この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置 する。 除じん装置と局所排気装置又はプッシュプル型換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具(防じんマスク)を着用する。
手の保護具	: 保護手袋を着用する。
眼の保護具	: 保護眼鏡(普通眼鏡型、側板付き普通眼鏡型、ゴーグル型)を着用 する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて保護面、保護長靴を着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 保護具は保護具点検表により定期的に点検する。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 粉末
色	: 淡黄白色
臭い	: わずかに特異臭(微脂肪酸臭)
pH	: データなし
融点	: 102~112
凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: データなし
可燃性	: 可燃性
爆発範囲	: データなし
蒸気圧	: ほぼ 0Pa (25)

相対ガス密度(空気 = 1) : データなし
 密度又は相対密度 : 1.4 g/cm³
 比重 : データなし
 溶解度 : 水、エタノールに不溶。熱エタノールに可溶。テルペン油にわずかに可溶。
 オクタノール/水分分配係数 : log Pow = 15.64
 発火点 : データなし
 分解温度 : データなし
 粘度 : データなし
 動粘度 : データなし
 粒子特性 : データなし

GHS分類

水反応可燃性化学品 : 本品は水に溶け難いが、水に対して安定である(水との混触で可燃性ガスの発生がない)と考えられるので、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性(反応性・化学的安定性)

: 通常取扱条件では安定である。

危険有害反応可能性 : 酸により容易に分解する。
 強酸化剤と反応することがある。
 火災などで強熱されると、有害な酸化鉛の煙霧とガスを発生する。

避けるべき条件 : 高熱、日光

混触危険物質 : 強酸化剤

危険有害な分解生成物 : 酸化鉛のフューム、一酸化炭素、二酸化炭素

11. 有害性情報

急性毒性 : 経口 分類できない。
 ラット LD50 >2000mg/kg
 LD50 >15000mg/kg

経皮 分類できない。
 吸入(蒸気) 分類できない。
 吸入(粉じん) 分類できない。

皮膚腐食性/刺激性 : 分類できない。
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 分類できない。

呼吸器感作性 : 分類できない。

皮膚感作性 : 分類できない。

生殖細胞変異原性 : 分類できない。

発がん性 : NTPでR(ヒトに対して発がん性がある)(NTP(2005))、
 IARCでGroup 2A(ヒトに対しておそらく発がん性がある)(IARC 87(2004))、
 ACGIHでA3(動物発がん性物質)(ACGIH-TLV(2004))、
 日本産業衛生学会で2B[人間に対しておそらく発がん性があると考えられる物質(証拠が比較的十分でない物質)](JETOC特別資料No.190
 (2004))に分類されていることから、区分1Bとした。
 発がんのおそれ(区分1B)

生殖毒性 : ステアリン酸鉛としては、生殖毒性に関するデータが無い。しかし、鉛はヒトで発生神経毒性物質、生殖毒性物質として知られている(ACGIH-TLV(2004)、ATSDR(draft 2005))に基づき、区分1Aとした。
 生殖能または胎児への悪影響のおそれ(区分1A)

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

: ステアリン酸鉛に関する単回ばく露情報はない。
 しかし、無機鉛化合物の毒性として、ヒトに対して、アミノレブリン酸およびヘム合成酵素の阻害に起因したヘモグロビン合成阻害、赤血球寿命の短縮による貧血、間質性障害、尿量減少のほか、蛋白尿、血尿、尿円柱、糖尿およびアミノ酸尿などに代表されるFanconi症候群を呈する近位尿細管障害が見られ、末梢神経系に作用して特に四肢の筋の虚弱、疼痛、痙攣が認められ、高濃度暴露では運動失調、頭痛、知覚異常、抑うつ、昏睡などの中枢神経系への影響が認められている。これらの影響は急性影響でも慢性影響でも同様にみられる(ACGIH-TLV(2004))に基づき、区分1(血液系、腎臓、神経系)とした。
 血液系、腎臓、神経系の障害(区分1)

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

: ステアリン酸鉛に関する反復ばく露情報はない。
 しかし、無機鉛化合物の毒性として、ヒトに対して、アミノレブリン酸およびヘム合成酵素の阻害に起因したヘモグロビン合成阻害、赤血球寿命の短縮による貧血、間質性障害、尿量減少のほか、蛋白尿、血尿、尿円柱、糖尿およびアミノ酸尿などに代表されるFanconi症候群を呈す

る近位尿管障害が見られ、末梢神経系に作用して特に四肢の筋の虚弱、疼痛、痙攣が認められ、高濃度暴露では運動失調、頭痛、知覚異常、抑うつ、昏睡などの中枢神経系への影響が認められている。これらの影響は急性影響でも慢性影響でも同様にみられる（ACGIH-TLV（2004））ことに基づき、区分1（血液系、腎臓、神経系）とした。長期又は反復ばく露による血液系、腎臓、神経系の障害（区分1）

誤えん有害性

: 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 分類できない。

水生環境有害性 長期(慢性) : 分類できない。

残留性・分解性

: 急速分解性はない。

分解度 33 % by BOD

生物蓄積性

: 高濃縮性。Log Kow = 15.64

土壤中の移動性

: データなし

オゾン層への有害性

: 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理を委託する。特別管理産業廃棄物のため、廃棄においては特に「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の特別管理産業廃棄物処理基準に従うこと。本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。

(参考) 固化隔離法

セメントを用いて固化し、溶出試験を行い、溶出量が判定基準以下

であることを確認して埋立処分をする。

汚染容器及び包装

: 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制（適用法令）

陸上規制 : 毒劇法、道路法の規定に従う。

海上規制 : 特段の規制なし（非危険物）

航空規制 : 特段の規制なし（非危険物）

国連番号

: 非該当

国連分類

: 非該当

品名

: 非該当

海洋汚染物質

: 非該当

MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類

: 非該当

特別の安全対策

: 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。車輛等による運搬の際にはイエローカードを運搬人に保持させる。

15. 適用法令

労働安全衛生法

: 名称等を表示すべき危険物及び有害物（政令番号 第326号「ステアリン酸鉛」、対象重量%は 0.1）
名称等を通知すべき危険物及び有害物（政令番号 第326号「ステアリン酸鉛」、対象重量%は 0.1）
（別表第9）

鉛等（鉛化合物）（鉛中毒予防規則）

作業環境評価基準

労働基準法

: 疾病化学物質（法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4）

化学物質排出把握管理促進法（PRTR法）

: ・分類 「特定第1種指定化学物質」
・政令番号 「1-353」

	・管理番号 「697」
	・政令名称 「鉛及びその化合物」
	ただし、R5年3月31日まで
	・分類 「特定第1種指定化学物質」
	・政令番号 「1-305」
	・政令名称 「鉛化合物」
消防法	：貯蔵等の届出を要する物質 (法第9条の3・危険物令第1条の10六別表2)
毒物及び劇物取締法	：劇物「鉛化合物」(指定令第2条)、包装等級
船舶安全法	：非該当
航空法	：非該当
水質汚濁防止法	：有害物質(施行令第2条、第2項) 「鉛及びその化合物」
土壤汚染対策法	：第2種特定有害物質(政令第1条第19号) 「鉛及びその化合物」 [溶出量基準値] 0.01mg/L(Pb) [含有量基準値] 150mg/kg(Pb)
輸出貿易管理令	：キャッチオール規制(別表第1の16項) HSコード：2915.70 第29類 有機化学品 ・輸出統計番号(2023年4月版)：2915.70-000 「飽和非環式モノカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン 化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、 スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体 - パルミチン酸及びステアリン酸並びにこれらの塩及びエス テル」 ・輸入統計番号(2023年4月1日版)：2915.70-020 「飽和非環式モノカルボン酸並びにその酸無水物、酸ハロゲン 化物、酸過酸化物及び過酸並びにこれらのハロゲン化誘導体、 スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体 - パルミチン酸及びステアリン酸並びにこれらの塩及びエス テル - 2 その他のもの」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

取扱注意事項：

本製品の取扱いは毒物劇物取締法の規定に従い、購入、保管、使用及び廃棄には細心の注意を払うこと。毒物劇物取扱等の責任者は、必要に応じ取扱う者に対し労働安全衛生、漏洩防止、緊急時の対応、環境影響、使用記録、保管庫施設、紛失盗難防止などについて教育、訓練を実施し、事故の予防に努めること。

参考文献：

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM	
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。